

研究協力をお願い

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

当院における選択的胆管挿管困難症例に対するプレカット法の検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2012年4月～2017年2月に当院でプレカット法によるERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）を受けられた方（2012年4月～2014年3月23日までの旧 昭和大学附属豊洲病院の方も含みます）

2. 研究目的・方法

ERCP（内視鏡的逆行性膵胆管造影）およびその関連手技は急性胆管炎や胆管腫瘍等の際、精査・加療のために行う検査・処置です。内視鏡を用いて、専用のチューブを胆管に挿入しなければならない症例においては、胆管への挿入が困難な場合もあります。当院ではそのような胆管挿管困難症例に対しては、プレカット法（胆管の出入り口を切開する方法等）を用い、胆管への挿入を試みております。また、胆管挿管困難症例は検査・処置後の合併症であるERCP後膵炎（PEP）の危険因子とされております。そのため、当院では症例に応じてPEP予防としての自然脱落型膵管ステントの留置を行っております。そこで、当院における胆管挿管困難症例に対するプレカット法および合併症（PEP予防としての自然脱落型膵管ステントの有無性）について検討する研究を計画しました。

研究期間

2017年9月15日～2018年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者背景（年齢、性別）、ERCP胆管挿管方法、合併症（急性膵炎、出血、高アミラーゼ血症）の有無、血液検査データ（血清アミラーゼ値）、自然脱落ステント留置の有無

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及

び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学江東豊洲病院消化器センター 氏名：佐藤 雅(研究責任者)

住所：135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38 電話番号：03-6204-6000